

## 第3次たじみ健康ハッピープラン策定会議（第2回）議事録

日時：令和5年7月27日(木)

午後1時30分～3時30分

場所：駅北庁舎大ホール

◆出席者 委員34名 欠席7名

### 1. 会長あいさつ

★第3次ハッピープランの概要について（佐藤）

★熱中症予防について（柴田）

### 2. 最近の喫煙対策について 13:35～13:50

講師：岐阜大学医学部看護学科 教授 瀬瀬朋弥氏

別紙資料

### 3. グループワーク 13:55～14:45（進行：西村）

テーマ

(1) タバコの害を知るために(喫煙開始や喫煙継続者を減らすために)

1) 子どもたち・若者が喫煙開始しない

2) 喫煙者が禁煙できる

(2) 受動喫煙対策を進めるために

1) 職場で受動喫煙を受けない

2) 自宅で受動喫煙を受けない

●6グループに分かれて自己紹介

●アイスブレイク

●グループワークについて説明

●各グループに指定されたテーマについてグループワーク

① 個人で「どうすればできるだろう？」の考えを付箋に記入

② メンバーでグループ分けをしながら模造紙に付箋を貼る

③ 個人で「どんな取り組みをする？」「どこが取り組む？」の考えを付箋に記入

④ メンバーでグループ分けをしながら模造紙に付箋を貼る

⑤ グループの意見をまとめる（～14:40）

#### 4. 全体発表 14:45～15:15

##### 1 グループ3分で発表

#### ● 1 G : テーマ「子どもが喫煙開始しない」

##### ① どうすればできるだろう

準備因子として、タバコの害を知る、かっこよくない

実現因子として、断るスキルを持つ、禁煙補助制度を作る、話し合う場を持つ

強化因子として、親が吸わない、教育を継続する、ストレス発散の方法を知る、吸えない環境を整備する

##### ② どんな取り組みをする・どこが(どこで)取り組む

- ・ 家族で話し合う
- ・ タバコについての学習の場をつくる
- ・ 喫煙を取り締まる
- ・ コンビニなど身近な場での啓発活動を行う
- ・ 相談の場がある

#### ● 5 G : テーマ「子どもが喫煙開始しない」

##### ① どうすればできるだろう

準備因子として、早くからの教育

実現因子として、授業を増やす、誘惑を断る

強化因子として、病院や学校で教える

##### ② どんな取り組みをする・どこが(どこで)取り組む

- ・ 親ではなくアイドル・タレントが「タバコはよくない」と発信する
- ・ タバコの値段を上げる
- ・ 喫煙場所を減らす
- ・ 製造メーカーが健康被害の責任を負う
- ・ 小学校での教育機会を増やす（医師会、行政等が）

#### ● 2 G : テーマ「喫煙者が禁煙できる」

##### ① どうすればできるだろう

準備因子として、害を知る

実現因子として、吸えない環境を作る（喫煙場所を減らす）

強化因子として、タバコの値段をあげる、禁煙サークルを作る、禁煙すると家族が喜ぶ企画を作る

##### ② どんな取り組みをする・どこが(どこで)取り組む

- ・ ロスとダメージ（損失と被害）の見える化。例えば、真っ黒な肺などを身近なスーパーなどで展示室を開設する
- ・ 新型タバコや3次喫煙など新しいかつ正しい情報を継続的に提供していく
- ・ メディアを通してタバコを吸う姿を見せない。また、身近なスポーツ指導者が子どもに見せない

- ・ 作文・川柳・ポスターコンクールを開催する

### ● 3 G : テーマ「職場で受動喫煙を受けない」

#### ① どうすればできるだろう

準備因子として、吸っている害・吸わされる害を知る、  
実現因子として、吸えない環境を作る（自治体と企業が連携して取り組む）  
強化因子として、禁煙のメリット

#### ② どんな取り組みをする・どこが(どこで)取り組む

- ・ 自治体と企業が研修会を実施する（正しい情報を伝える）
- ・ 禁煙補助する（自治体も企業も）
- ・ 禁煙への報酬制度を作る（禁煙したら昇給・昇格など）
- ・ 環境を整備する（職場で禁煙が継続しやすい、職場の周りの飲食店の禁煙）

### ● 6 G : テーマ「職場で受動喫煙を受けない」

#### ① どうすればできるだろう

「吸う人が減る」をテーマで話し合った。  
準備因子として、受動喫煙の影響を知る  
実現因子として、喫煙の姿を見せない  
強化因子として、家族で取り組む

#### ② どんな取り組みをする・どこが(どこで)取り組む

- ・ テレビCM「タバコの害に困っている人がいます。ACジャパン」を流す
- ・ たじみすとで喫煙が与える影響を啓発する
- ・ 職場の環境整備をする（タバコ教育、上司の理解、敷地内禁煙、時間内禁煙、労働組合の活用）
- ・ 禁煙相談の場を増やす（保健センター・保健所・病院・薬局・職場）
- ・ ストレス発散方法を知る

### ● 4 G : テーマ「自宅で受動喫煙を受けない」

#### ① どうすればできるだろう

準備因子として、害を知る  
実現因子として、禁煙施設を増やす、家族の健康を考える  
強化因子として、家族が喫煙しない、禁煙する仲間を作る

#### ② どんな取り組みをする・どこが(どこで)取り組む

- \* 学校で学ぶ：幼少期からタバコの害について学ぶ
- \* 家庭で話す：子どもがタバコについて話すことで禁煙のきっかけになる
- \* 社会でサポート：
  - ・ 禁煙外来をわかりやすくPRする
  - ・ 喫煙に代わるストレス発散方法を見つける

★昨年度の推進会議や関係機関等のヒアリング、喫煙対策検討会議等での意見紹介

- ・タバコフリーキッズ（対がん協会）の利用
- ・小中学校での啓発用の動画作成
- ・優良事業所の認定制度（勤務時間内禁煙、45分ルール、採用条件にする）
- ・小中学校でコチニン検査の実施
- ・保健センター事業で動画放映
- ・スワンちゃんを新型タバコを取り入れてリニューアル

5. 瀬瀬先生より助言 15:15～15:25

- ・準備因子として正しい知識を持つことが大事である。それを行政だけでなく、子どもたちが学んで発信するというアイデアが出ていたので、取り入れてほしい。
- ・職場や地域で重層的・継続的に情報提供していくことが大事である。また、今の時代にマッチした情報提供・情報発信に工夫が必要である。
- ・大人の態度が子どもに影響していくので、子どもに対して「タバコはよくない」と示していくことが必要である。
- ・実現因子として、仲間を作って取り組むことが意見として多く出たが、地域や職場での関係性が希薄化しているなか、禁煙だけでなく、食生活や運動なども共通して仲間づくりが重要だと感じる。継続していくためにも有効だと感じる。
- ・禁煙サポートとして3師会の協力が必要だと思う。禁煙外来は敷居が高いと思われるため、敷居を低くするなどの工夫をしてほしい。
- ・喫煙しにくい環境を作るという意見がたくさん出ていたが、これが喫煙率の低下につながると思う。禁煙のみならず健康づくりに取り組む余裕がない人も多い。それを応援するような多治見独自の仕組みづくりを考えてほしい。  
今回のような、いろいろな立場の人が話し合うというプロセスが貴重であり、今後の多治見市の健康づくりに必要であると思う。

6. 次回会議の連絡 15:25～15:30

別紙資料の出欠表を提出

令和5年8月17日(木) 午後1時30分～3時30分